

第2回平戸市総合計画 基本構想起草委員会

議 事 録

と き：平成28年12月27日（木）14：30～16：45
と ころ：平戸市役所3階小会議室

開催日時	平成28年12月27日(木) 14:30~16:45
開催場所	平戸市役所 3階小会議室
出席委員 (50音順、敬称略)	今川亮生、鴨川周二、坂本鏡心、西サチ子、村上則夫、森健司 (6名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	なし
事務局 (財務部企画財政課)	吉住財務部長、小出企画財政課長、藤山企画統計班長、峯野企画統計班係長、山口企画統計班主査 ※コンサル2名
次第	
1. 開会	
2. 財務部長 あいさつ	吉住財務部長
3. 審議会会長 あいさつ	村上会長
4. 議題 (1)第2次平戸市 総合計画の目次 立て案について 委員	<p>(事務局から説明)</p> <p>この平戸市の総合計画は3つの視点が欠けている。1つ目は、きれいに仕上がっているが、市民の目線に立っていないということが言える。市民一人一人の視点から描けていなければ、行政用語が入っていたりして形は整っているけれども身近なものとして受け取れない。2つ目は、形や枠にとらわれすぎていて魅力が失われている。3つ目は、ストーリー性。小説などは読み始めた時にどうなるのだろうと、わくわくドキドキしながら読むので面白いが、そこにストーリー性がなければ「もういい」という話になる。ここにおられる委員はそれぞれの場所で活躍されているので、一人一人の色を出し切ってきれいな虹を作り上げてほしい。これを読んで、「未来はこうなるのだ。これを実現するためにどういうデザインで、いろいろな物をどう組み合わせていくのか」と、最後</p>

	<p>までストーリー性が読めるようなものを作り上げれば、終わるまで宝物として取っておこうとなる。</p>
委員	<p>3つの視点という話があったが、要はやる気を起こさせるような内容になればということ。</p>
委員	<p>今回の提案の形がいいと思う。最初に未来が書かれていると分かりやすい。</p>
委員	<p>分かりやすいことが、皆さんが身近に考えると思うので、そういうものにしたいと思う。</p>
委員	<p>形にとらわれず、砕けたソフトな感じがいいので、次期計画案はよくできている。</p>
委員	<p>意見が出ているが、方向としては同じ。提案の方向で進めるということではよいか。</p> <p>(異議なし)</p>
(2) 基本構想骨 子案について	<p>(事務局から説明)</p>
委員	<p>「ひと (H I T O)」を残したいというのが市の考えか。</p>
事務局	<p>サブタイトルでもいいが、「平戸 (Hirado)」「生月 (Ikitsuki)」「田平 (Tabira)」「大島 (Oshima)」というところは、残したほうがいいと思っている。</p>
委員	<p>10年前の合併当初は意味があったと思うが、「ひと (H I T O)」が人を引きつけるような力がある言葉とは思えない。「H I T O」が一体感を表しているとも思えないし、アルファベットにすることで国際性の</p>

	豊かさを表現しているとも思わない。
事務局	合併直後で頭文字を取った部分があり、残したほうがいいと思った。「ひと（H I T O）」をメインに出そうと考えているわけではなく、キャッチフレーズの下などに使ってもいい。
委員	人づくりが基本になると思うが、現在のキャッチフレーズは第三者的な感じがする。一つの例として「美しき 豊かな郷土 磨きあう 私がつくる 元気な平戸」など、一人一人がまちづくりの主役だということを訴えたほうがいい。
委員	「市長ヒアリングより」は、市長の思いとして出されたのか。
事務局	合併当初は4市町村でお互いに響きあってということで「ひと（H I T O）響きあう」だったが、市長はこの第2次では前に出ていこうという部分を込めたい、ということであった。
委員	「ひと」とは人間のことで、この人間をどう動かして、どう育てていくかだと思うが、「ひと」だけでは意味が通じない。市民は、今まで通り大島も度島も生月島も平戸島も田平も存在してほしい、栄えてほしいという気持ちなので、キャッチフレーズは「活かせ人・宝の島」はどうか。今までの計画を全面的に変えるのではなく、ある程度、踏襲しながら新しい感覚を引き込んでいく形がいい。
委員	市民に「ひと（H I T O）」という言葉が心に残っているかと尋ねれば、過半数が心に残っていないと思う。
委員	前回、最後は人だという話をしたが、どう活かすかとか、それは基本的にみんな同じ。市民といっても、大島、生月島、度島、それぞれが違う環境にあるので、そういうものが「ひと（H I T O）」の中にうまく

	<p>出てきてほしい。そうすると、それぞれ自分たちが主役という実感がわくだろうし、前に進もうという気持ちが出てくるのではないか。言葉だけでなく本物にするのは住民ではないか。</p>
委員	<p>世界遺産関連はここに入れる予定はないのか。</p>
事務局	<p>どこでうたうかという部分もあるが、世界遺産は平成30年にはっきりするが、市にとっても1つの大きな転換になる。</p> <p>世界遺産は17ページに6つの基本目標を掲げているが、その観光の分野、また、歴史・文化の両方に顔出しをしてくる。2ページの西九州道のところには「交流」がある。これはタイトルで、この下には文章が入る。</p>
委員	<p>未来を実現するための目標として、協働や産業振興、豊かな自然と歴史、人づくりなど、幾つかの項目がある、その項目は関係なく羅列するのか。</p>
事務局	<p>ある程度、複数のことを包括したような言葉を頭に出して、中の言葉で述べる形がいいと思っている。</p>
委員	<p>気になるのは、人口減少対策、雇用対策、産業振興など、そういう課題があまり反映されてない。</p>
事務局	<p>総合戦略の部分は私たちが課題として解決すべき部分になってくる。具体的な対策のところは、基本目標で総合戦略の部分を挙げたりしているので、そこで、どうしていくかをうたい、そこを踏まえた上での方向性。課題は課題として設計図を出す、未来図はそこを乗り越えた上で、どういうものをめざすかというところになる。</p>
委員	<p>「平戸」といえば、やはり歴史と文化は非常に大きなウエイトを占め</p>

	<p>と思うので、重要な位置で残していただきたい。</p>
委員	<p>平戸で大事なものには「子育て」があり、その中に、人口減少の緩和やUターン・Iターン、婚活なども含まれる。「産業」は、第一次産業から第六次産業まで、「観光」は歴史・文化ということで進められる。市外の人に歴史・文化を伝えることも、子育ての中で地元の人に歴史・文化を知ってもらう取り組みも必要なので、この3つの柱が大きい。そこから「安心・安全のまち」などを決めていったらどうか。</p>
委員	<p>タイトルの「未来を実現するために」、ここではキーワードのようなものを載せると思うが、西九州道がこのタイトルになるようなキーワードなのか疑問だ。</p>
事務局	<p>まちづくりプロジェクトの中で、ある程度、課題を具体化し基本目標という形になる。基本目標が総合戦略の中で既に4つは決まっていて、それに観光と行財政の部分は入れたい。この目標の大きな方向性を決めていただきたい。まちづくりの方向性として、大きく3つ例として載せている。</p> <p>キーワードは「安全・安心」「歴史・文化」「人と自然」という形の方向性はいかがか提案したい。西九州道は10年の計画期間に開通が見込まれる中で、それを見据えて取り組んでいきたいと思いますという事で、西九州道という言葉が表に出ることはない。</p>
委員	<p>1番目が市民の士気を高めようという方向性、2番目は今まである宝をもっと周りに広めようという方向性、3番目も、今あるものをとにかく使おうということ。</p>
委員	<p>人づくりが基本ということだが、子育ても含めてその辺が少し弱い。</p>
事務局	<p>庁内会議でも「人材育成という部分の明記」という話が出た。人材育</p>

	<p>成の部分はどう書いていくか。「ひと」はキーワードの1つで大事な部分なので、どう厚みを持たせるかは今後の課題。</p>
<p>委員</p>	<p>6ページの「(4) 産業振興、雇用の促進」の最後の行に「積極的な企業誘致を行い」となっているが、これについては「なかなか現状としては難しい」など、いろいろな意見が出ている。現行基本計画の、23ページの「産業振興による雇用の促進」の最後の行に、「これまでの企業誘致とは視点を変えた雇用の確保も必要です」と、10年前にもこういう文言がある。それを、あえて「積極的な企業誘致」というのが市の方針なのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>田平で工業団地を造っており、平成30年度で工事が完成して平成31年度から売りに出す。たくさんあった遊休地のほとんどが太陽光の場所になってしまい、まとまった区画の工業団地がなかったが、田平に建設中なので10年前とは視点が変わって具体的な話になっている。</p> <p>2～3年前から特定の企業とやり取りしているが、海外まで考えている企業なので、現状は厳しい。</p> <p>今は日本全国の市町村が人口減少対策ということで総合戦略を作り、企業誘致に取り組むような時代で、工業団地がなければ誘致の話もできない。具体的な話までしているところも数カ所ある。誘致している企業を支援して規模を拡大してもらおうという方向もあるので、色々探りながら進めたい。</p> <p>例えば、人口減少対策など、ストレートで硬すぎるので、表題のニュアンスを変えたい。「第2次総合計画」というタイトルも、できれば県の「チャレンジ2020」のような形にしたい。</p>
	<p>委員</p>
	<p>「地域コミュニティの自立」とある。今、度島、志々伎、大島、山田・館浦、もうすぐ田平となっているが、10年後は全部、まちづくり運営協議会が設立されているのか、継続されているのか、きちんと機能しているのか。コミュニティが自立するように喚起すると捉えていいの</p>

<p>委員</p>	<p>か。平戸市としては、まちづくり運営協議会を小学校区につくっていきたいが、市民がそれをいいことだと思っているかどうか、疑問だ。</p> <p>今は、そこまで知らない市民が多いのではないかと思うが、分かっている人は必要だと思っているのではないか。10年後も続いているかどうかは、続けたい、発展させたいと思っているのではないか、そう努力したいのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現状を分析し、意見を頂いて、未来はこうしたいというものを作っていくので、知られていない部分や、なかなか進まないという部分もあるかもしれないが、行政の立場として皆さんに周知し、乗り越えていって明るいところをつくっていかなければならない。10年後のことは誰も分からないので、今の段階で確定したものは書き切れないが、こうあってほしい、こうしたいというものを書くのが総合計画かと思う。</p> <p>職員の中でも、本当に小学校単位でできるのかと懐疑的な人がある。特に平戸地区などは本当にできるのかと疑問を持っている人もいる。市としては、まちづくり運営協議会を小学校単位でつくっていきこうという方向性は間違いなく持っているので、やはり計画上はうたいたい。努力しても結果的にできなかったということは当然ある。ただ、努力してできなかったのか、努力せずにできなかったのかは検証が必要。</p> <p>現行の計画も10年を迎えるので検証を行う。できなかった部分もあるので、内容がどうだったのか、本当に努力してできなかったのかとか、効果を検証し、次の基本計画のほうにどうすべきかをうたうようにしている。</p>
<p>委員</p>	<p>あくまで、未来への5つの戦略ポイントなので、どういうやり方でいくと未来が実現するかということ。そのために地域コミュニティを自立させましょう、人口対策を考えましょう、魅力をもっと向上させましょう、産業振興しましょう、雇用も自治体運営もばっちりやりましょう、そうすると未来が実現しますよと、戦略ポイントを描く場所。そのため</p>

	<p>に地域コミュニティが自立していないと素晴らしい未来の実現ができないということで、この項目が出てきている。</p>
委員	<p>「ひと（HITO）響きあう 宝島」に全部なれば、平戸が「ひと（HITO）響きあう 宝島」になるのだが、そこまで実現していないので、「実現できる未来図」を描いて、そのためにどういう戦略を持っていくかということを市民レベルで考えていくということではないか。</p> <p>第2章の「未来を実現するために」のところ意見が混乱したのは、「実現する」というと戦略と勘違いしてしまうから。第1章は、未来とはどういう姿なのか、それを少し具体的に落とし込んだものが第2章の方向性になる。市民の意見を聞いて、未来を実現するための戦略に何を持ってくるかというのが第4章に入ってくるという構成だろう。</p>
委員	<p>「自立する自治体経営の推進」の中では、何を強く伝えたいのか。</p>
事務局	<p>平戸市では、自主財源が乏しい部分がある。人口減少もさらに拍車をかける部分があるので、限られた財源と人材を有効に活用したいという部分を挙げるべきだと思う。</p> <p>地方財政は地方交付税で何とか賄えるような仕組みになっているが、今の地方財政の制度上、よほどのことがない限り自立はできない。財政的には自立できないが、政策や自分たちが進むべき方向性は、自分たちが経営をしていくことをうたいたいと思い、「自立する自治体経営」と書いている。</p>
委員	<p>「チャレンジする自治体」とか、具体的に書いたほうが分かりやすい。</p>
事務局	<p>「自立」は確かに誤解を招くかもしれないので含めて、検討する。</p>
委員	<p>「(4) 産業振興、雇用促進」について、Uターン・Iターンも入れ</p>

	<p>ておくべきではないか。仕事さえあればふるさとに帰りたいという人がたくさんいる。若い世代もだが、50歳代になる人たちからもそういう声を聞く。</p>
委員	<p>平戸市がやっている婚活は、市が主催して、世話人のような職員を係として置いているのか。</p>
事務局	<p>「めぐりあい協議会」という組織があり、担当課が事務局。そこが中心になって婚活の事業をやっている。それでも成果が上がらない。</p>
委員	<p>集まりはしたが、それから先に進むことができない人もいます。そういう場合は、昔の世話焼きおばさんのような人が必要だ。</p>
事務局	<p>壱岐市が成果を上げたが、事前に、婚活に臨む男性にかなりレクチャーしたらしい。「場をつくりますので来てください」だけでは成立しない。婚期を逃した人たちは、生活力はあるが、結婚願望がなかったり、と難しい。市内に未婚の男性も未婚の女性もそれなりにいるが、カップルにならない。</p>
委員	<p>収入など条件がとてもしっかりいいのだが、漁師ということや土地柄だけで断わられた。そこには子どもも増えないし、だんだん寂れていく。</p>
事務局	<p>漁師だからということではなく、やはり人間によるのではないかと思う。</p>
委員	<p>人の魅力と同時に平戸の魅力があれば、平戸に定住したいと思うのではないか。企業も同じで、未来をひらくのは魅力づくりだと思う。</p>
委員	<p>恋愛そのものが面倒くさいと思っている若者も増えているようだ。結局、生きられるので不自由がないということだ。</p>

委員	<p>第1章の12、13ページだが、冒頭に説明があったように、「日本に誇る平戸市」というのを「近年の歩み」より大きく取り上げてほしい。</p> <p>また、「(3) 平戸市の宝」は、基本的にアンケートだけか。</p>
委員	<p>「平戸市の宝」がアンケート結果だけでいいのか疑問。「あご」は共通の資源だが、2～12位は旧平戸市が多い。生月で1つだけ挙げるとすれば「大バエ灯台」を挙げるが、これに載ってないのが残念だ。</p>
事務局	<p>「参考」と書いてもいいかもしれない。例えば、栗林先生も宝なのかもしれない。その辺も含めて少し考える必要がある。</p>
委員	<p>本当の平戸の宝を紹介するという部分があってもいいのかと思う。</p>
事務局	<p>最後の18ページが「地域づくりプロジェクト」ということで、ここには「旧市町村単位で」とあるが、各地域にそれぞれ特色があったり、産業構造や文化の違いがあったりするので、それを活かしながら独自の計画も必要ではないかということで、「地域づくりプロジェクト」を挙げている。ここについては、旧市町村単位で地域協議会と地域審議会があるので、諮りながら書き込んでいく。</p>
委員	<p>地域づくりというのは、各地域で全く違った特徴があると思う。その地域で特色を出して、お互いにいいところは意識しながら、動いていていいのではないか。</p>
委員	<p>最後の「地域づくりプロジェクト」は旧市町村単位で、小学校単位のまちづくりでということか。</p>
事務局	<p>小学校単位はまちづくり運営協議会を進めており、その中でまちづくり計画を作るので、そこに委ねていいと思う。市民の皆さんからは、地域ごとの計画は作っていないのかということで、旧平戸市の中でも文化</p>

	<p>の違いがある。一番大きいのは離島があること。島に行くと自分の時間で動けない。そういう不自由さは島で日々暮らしている人でなければ分からないので、全部同じにはできないという前提で、それぞれの地域課題を挙げてもいいのではないかと思う。</p> <p>合併した後は旧市町村単位で、地域協議会と地域審議会があるので、そこに投げかけて説明しながら、各地域課題を挙げて計画を挙げてもらう。市民目線の計画にするには、行政だけで考えても自分たちの既成概念から出て、分からない部分もある。地域の課題を挙げて、それを協議してくださいということで投げかけようと思う。</p> <p>支所とも打ち合わせながら進めていく。行政が考えて押しつけるのではなく、地域の皆さんの、思っている目標を達成したいというものを引き出したいということが根底にある。</p>
委員	<p>地域の独自性は大事にしながら目標設定をするのは分かる。その目標のさらに上に市のいろいろな思惑があると思うので、より近づきながら努力することが大事だ。</p>
委員	<p>課題が共有されれば、ある程度同じ歩調でいける。足並みがそろわないところは意識がばらばらだ。</p>
委員	<p>ばらばらなところを自分たちの独自性だと押しつけられては困る。自分たちの特性を出しながら、1つのレベルに向かってやっていきたい。</p>
委員	<p>基本目標1の「しごとをふやすプロジェクト」と基本目標2の「しごとをのばすプロジェクト」は、産業振興や雇用促進など同じかと思う。これは総合戦略に基づいてということですが、他にも明確に違いが分かるような表現がないものか。</p>
委員	<p>似たような課題になるかもしれないという心配はあるかもしれない。それも住民の目線というのは何なのかというところを何か出してもらえ</p>

	<p>ばありがたい。</p>
委員	<p>17ページの「しごとをふやす」というのは、雇用促進で仕事は増えるのではないか。「しごとをのばす」というのは、産業の振興をすることではないか。</p>
委員	<p>田舎にいながらインターネットを活用して仕事をする人もいる。花粉症にならないために、どこかの島でIT関係の仕事をして効率がかかなり上がったと聞いた。人に雇われるということではなく、あちこちで起業する人がいて、平戸にも似たような人たちが少しずつ出てきているので、一概に雇用促進というだけではないとは思う。</p>
事務局	<p>光ファイバーが通り、どこでも仕事ができるので、今からは起業などの可能性は出てくる。</p>
委員	<p>介護や看護をしながら仕事をするということから、仕事を変えるとか、そういうことも求められている。</p>
(3) 市民アンケートについて	<p>(事務局から説明) (特に意見なし)</p>
(4) その他	<p>(事務局から説明)</p>
委員	<p>最終的な報告書についてだが、今のものはページの割り振りや、言葉が多すぎるなどで少し読みづらい。</p>
事務局	<p>文字数を多くしても実際に読まれないということがあるので、極力抑えたい。</p>
委員	<p>重複している部分も多いので、見せ方もすっきりしていただきたい。</p>

事務局	<p>総合計画を最終的に冊子にするが、別に各家庭に配布する概要版も作る予定。分かりやすい、見やすいものを、という話も出ている。</p> <p>会議終了</p>
-----	---------------------------------------------------------------------------------